



所信声明 自然分娩を継続するために Keeping Birth Normal

背景

助産師の実践は、助産ケアの質と成果の向上をめざし、エビデンスに基づく知見から情報を得て行われなければならない。「自然分娩を継続する」ことは、女性の健康、助産師の教育・実践、および既存の医療制度と関連する ICM の戦略の一分野である。

助産師は、自然分娩を支持する。助産師は自然分娩のメリットを裏付けるエビデンスを提供することができるが、女性が行う決定は以下のような要素により影響を受けることがある。

- 文化
- 社会経済的問題および保健医療制度
- 自然分娩の利点に関する情報不足
- 自然分娩に対する恐れ
- 生まれ持った出産能力を信じられないこと

助産教育が病院など医療目的の臨床環境のみに限定されて行われる場合、助産師は ICM 「助産師の定義」 および ICM 「基本的助産実践に必須なコンピテンシー」 に示された助産実践の範囲全体を実践できない場合もある。そうした経験は、自然分娩を行う女性を支援する助産師の能力に影響を及ぼす可能性がある。

ICM は自然な出産について以下の定義を支持する。

- 胎児と母体の生理および心理社会的背景におけるダイナミックな独特のプロセス
- 自然な出産とは、外科的・内科的・薬学的介入なく女性の分娩が開始・継続・終了し、児が正期産で自発的に頭位で生まれることをいう。

見解

大多数の女性にとって妊娠と出産は生理的なライフイベントであり、ICM は自然分娩を支持する。自然分娩の推進は、ICM 「実践の範囲」 に含まれており、助産師は出産の生理を支援するあらゆる方法において能力を有していなければならない。女性は助産師が主導するケア、1 対 1 のサポート（自宅出産と水中出産を含む）が利用できなければならない。

注：出産という語には、妊娠、出産、産後期を含む。

会員協会への指針

会員協会には、妊産婦とのパートナーシップの中で以下を行うことを促す。

- 出産サービスの中で自然分娩を推進すること
- 自然分娩の主たる介助者・専門家として助産師を位置づけること
- 自然分娩の技能とコンピテンシーを強化するため、助産師教育を充実させること
- 自然分娩における助産師の実践を強化するため、教育課程を体系化すること
- 妊婦と新生児の健康の観点から、自然分娩のメリットに対する助産師の意識を向上させること
- 医療指標を確立・活用し、自然分娩における助産師の実践結果を評価すること
- 自然分娩における助産ケアの有効性を立証するための研究を行うこと
- 保健省およびその他の組織と協力し、影響力を行使すること
- 出産サービスに関する戦略的計画立案と意思決定プロセスに関与し、これにより自然分娩を支持する政治家を支援すること

関連 ICM 文書

ICM. 2004. WHO/ICM/FIGO 共同声明 妊娠をより安全なものに：能力を備えた介助者の重要な役割

ICM. 2008 基本文書 ビジョン声明

ICM. 2011 基本文書 助産師の定義

ICM. 2010 基本文書 基本的助産実践に必須なコンピテンシー（2013年改訂）

その他の関連文書

Maternity Care Working Party. 2007. Consensus statement-Making normal birth a reality. National Childbirth Trust/Royal College of Midwives/ Royal College of Obstetricians and Gynaecologists, UK,

WHO. 2011. Keeping birth normal.

http://www.int/chd/publications/newslet/dialog/8/keeping_birth_normal.htm

2008年、グラスゴーでの国際評議会にて採択

2014年、プラハ国際評議会にて見直し・採択

次回の見直し予定：2020年

2016年 公益社団法人日本看護協会、公益社団法人日本助産師会、一般社団法人日本助産学会 記

ICM発行文書の原文については、ICMが著作権を有します。

日本のICM加盟団体である日本看護協会・日本助産師会・日本助産学会は、ICMの許諾を得て日本語に翻訳しました。

日本語訳の著作権については、原文作成者であるICMと日本看護協会・日本助産師会・日本助産学会に帰属します。

原文の転載引用については、ICMに連絡し使用許諾を得てください。

日本語訳の転載引用については、日本助産師会<http://www.midwife.or.jp/>に連絡し使用許諾を得てください。